

進捗状況の概要

平成27年度は、平成26年度から進めてきた計画に基づき、本学の1年次全員が受講する初年次教育プログラム「S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～」を実施し、全学的に15のプログラムを展開して188名の教員がS I H道場の授業を担当した。学生の学習効果をより向上させるプログラムへと改善していくため、「S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～」終了後に、学生アンケートの実施・分析を行った。その結果、学生の受講満足度は全プログラムで平均すると83%の高評価を得た。より効果を向上させていくため、各教育プログラムから受講学生1名以上が選出された「S I H道場評価・改善ワーキンググループ」の学生にインタビューを行い具体的な改善点を整理した他、教員対象のアンケートの実施・分析、授業設計コーディネーターによる自己評価を通して、プログラムの評価を行った。さらに、これらのデータや「S I H道場振り返りシンポジウム」での意見交換、議論を通して、次年度以降のS I H道場を改善していくための施策を明らかにし、大学教育再生加速プログラム実施専門委員会による自己評価を行い、報告書を作成した。これらの改善策は、平成28年度の授業設計に活かすために、新たに選出された平成28年度授業設計コーディネーターや授業担当者と共に共有を行った。また、これらのプロセスを含む事業全体を外部評価委員による外部からの視点で評価を受け、改善を行う体制を整えた。このように、次年度以降も毎年実施していく初年次教育プログラム及び事業全体のPDCAサイクルのモデルを構築することができ、より学習効果の高いプログラムを実施する準備が整った。

アクティブ・ラーニングを専門教育科目に普及させていくための取り組みとして、事例の収集や共有に向けた準備を行った。具体的には、さまざまな専門分野におけるアクティブ・ラーニングの取り組みとして学内の合計27の事例を調査し、授業事例カードとしてまとめると共に、この授業事例カードをFDの際に参照資料とするなどして活用した。また、「APシンポジウム」を開催し、アクティブ・ラーニングや反転授業の実践における成果と課題を共有し、参加者間で議論を行い、各種FDにおいて、学内のアクティブ・ラーニングを実施している実践事例を共有し、アクティブ・ラーニングの実施を他の教員に波及させる態勢を整えた。さらに、教員のFDへの参加や企画・実施を評価する仕組みを整えることができた。このことで、今年度S I H道場を担当した教員が自身の専門科目でアクティブ・ラーニングを実践していくことを支援する体制を整備することができた。